

里親学生支援事業としての6回目の卒業生を送り出しました

2017年3月31日

平成29年3月10日(金)に平成28年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、6回目の卒業生(医学科7名、看護学科1名)を送り出しました。

卒業式当日は、時折小雨がぱらつく様子もありましたが、卒業するほぼ全員の登録学生が集まり、里親学生支援室員が卒業生を囲んで記念撮影を行いました。

学生達が、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。



講義・実習中のスマートフォン等の使用に関するFD・SD研修会を開催 しました

2017年3月16日

里親学生支援室では、平成29年3月1日(水)に看護学科棟の看護第一講義室において、FD・SD研修会を認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構の共催として開催しました。

このテーマでは平成26年度にも実施し、2度目の実施となります。

研修会では、里親学生支援室員であり、基礎看護学講座(形態・生理)の相見教授より「アンケート調査結果報告」として講演がありました。講演では別途調査した「講義・実習中のスマートフォン等の使用に関する調査」結果を基に、教職員の対応の変化や学生の要望などについて報告がありました。

続いて、学生生活支援部門長 医療情報部の永田教授とマルチメディアセンター 重歳助教から、「知っているようで知らない情報化社会の変化 学生たちに何を教える必要があるのか?」と題して講演がありました。講演では、講義資料における著作権の話があったほか、情報を安易に拡散することのリスクについて様々なタイミングで学生たちに教えていかなければならないなどのお話がありました。

その後のディスカッションでは、それぞれの講義での対応の仕方についての意見交換があったほか、学生のほとんどが電子機器を所持する状況の中「教育のインフラとして使用し、その中でモラルを育てていくことも必要ではないか」など様々な意見が聞かれました。

なお、今回の研修会には、県内看護学校の方々も含め、約40名の教職員の方々にご参加いただき有意義な研修になりました。



地域理解・交流事業「宿泊研修」日程決定(平成29年3月23日～24日開

催)
2017年3月13日

地域理解・交流事業「宿泊研修」日程

～彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

●3月23日(木)1日目

滋賀医科大学(出発)<9:00>

↓

彦根市地域見学(散策)<10:00～11:50>(彦根城・彦根城博物館など)

↓

赤鬼(昼食)<12:00～12:50>

↓

彦根市立病院(説明・見学)<13:00～15:00>

↓

友仁山崎病院(説明・見学)<15:30～16:30>

↓

グランドデュークホテル(交流会・宿泊)<16:50頃到着>

17:30～18:30 交流会<第1部>講演/意見交換等

「在宅支援における医療従事者の連携について(仮題)」

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

認知症ケア上級専門士/介護福祉士 今井 友緒子 氏

「「ふくしあ」での医療活動について(仮題)」

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」センター長

中村 泰之 先生

18:45～20:45 交流会<第2部>学生報告会/懇談/会食

20:45～ 学生交流会

●3月24日(金)2日目

グランドデュークホテル(出発)<8:40>

↓

龍潭寺(りゅうたんじ)(地域見学)<9:00～10:00>

↓

米原市地域包括医療福祉センター

「ふくしあ」(説明・見学)〈10:30～11:30〉

↓

若いぶき(昼食)〈12:00～13:00〉

↓

地域包括ケアセンターいぶき(説明・見学)〈13:15～13:45〉

(地域交流)〈14:00～15:30〉

↓

滋賀医科大学(解散)〈17:00頃〉

↓

瀬田駅(希望者ありの場合)